辰年ですが我が家の犬の話

釧路市医師会
足立産婦人科クリニック　足立英文（あだちひでふみ）

皆様明けましておめでとうございます。今年は私にとって４回目の年男であり、時の流れの早さを痛感しております。

2020年の新型コロナウイルスのパンデミックにより人々の生活様式は大きく変化しました（最近はほぼ元に戻りつつありますが）。我が家も例外ではなく、家にいる時間が長くなって暇を持て余すようになり、犬を飼うことになりました。黒のオスのチワプーです。元は妻が犬を飼うことに積極的でありましたが、私にばかり懐いて妻には懐かないため、妻が「もう１匹飼いたい」などと言い出しました。当初反対しておりましたが、私にある考えが湧き上がりました。「犬のお産を見てみたい」

産婦人科医として人間のお産は山ほど見てきましたが動物のお産は見たことがありません。丁度家を新築している最中で結構広い家になりそうで、４～５匹の犬を飼えるスペースは十分ありそうでした。私と妻の思惑が一致し、メスのトイプードルを我が家に迎え入れる事になりました（結局その犬も私にしか懐きませんでしたが・・）。２匹を飼い始めて１年くらいの後、メスの発情期がやってきました。私が一人で家にいたある日、５分ほど目を離した隙に２匹はおっぱじめておりました。オスと目があった時の「しまった」という焦りの表情が今でも忘れられません。

１か月後、メスのお腹が大きくなってきたように見えました。妊娠したかもしれないと思いエコーで見たところ、お腹の中に２匹の赤ちゃんがおりました。新しい家が完成した１か月後のある夜に遂に破水、陣痛発来しました。約５時間後、無事に２匹の子犬が誕生しました。私はほとんど見ていただけで何もできませんでしたが、胎盤の娩出と臍帯の結紮、切断を行いました。体重が３kgの小さな体で特に痛がる様子もないスムーズな分娩でした。

分娩後、誰に教えられた訳でもないのに消耗した体ですぐに授乳を始める健気な姿に、正直、人間のお産より感動しました。犬は安産の守り神として崇められており、戌の日の由来となっております。また犬のお産の夢を見た人には幸運が訪れるといいます。疫病の蔓延や戦争など何かと暗い世の中ですが、皆様に幸運が訪れることをお祈り申し上げます。

北国に戻って

旭川市医師会
くまいクリニック　熊井理美（くまいまさみ）

気づけば３回目の年男となりました。今年から北海道に戻り、これで北海道在住は19＋１年と20年目になります。その間、小生は石川県の金沢医科大学を卒業後そのまま石川県に住んでおりました。

やはり北海道とは異なる地です。受験の際に初めて石川県に降り立った際にタクシーで言われたことが衝撃でした。「お弁当は忘れても傘は忘れない方がいいよ」初めはその日の天気が不安定なのかな、と思う程度でした。しかし実際に住んでみてそんなものではないことを実感しました。朝晴れていると思ったら移動途中で急に土砂降り、帰宅時には雲一つ無し、など天気の移り変わりが非常に早いのです。それに加えて雷の発生率が全国１位でコンセントにも雷対策が必要でした。また、冬に関しても戸惑うことが多々ありました。雪が降った時に北海道では除雪車が走るかと思います。しかし、石川ではそのようなことはめったになかったです。数年に一度、大雪が降る際に１日に１～２回走ることはあるもののほとんど走っているのを見ることはなかったです。その代わりに主要道路に消雪パイプがあり雪が降ると道路に水をだして雪を溶かすのです。初めは凍って危なくないか不安でした。しかし、あまり気温が下がらないため凍らず、雪も溶けてほとんど積もりません。その代わり、水が道路にたまるため車が止まるか不安になることは多々ありましたが。

以上のように天気に関してだけでもまずは慣れるまでに一苦労でしたが、その分興味深いものもあふれていました。治部煮や富山県のます寿司、兼六園や福井県の恐竜博物館など挙げればきりがないです。そのような慣れない地で10余年、現在はほっきやジンギスカン、定山渓など懐かしのものに触れ、北海道に帰ってきたのだなと実感しております。北海道も旭川近郊は把握しているつもりでしたが、久々だと右も左もわからないことも多く日々新鮮な毎日を送っております。まだ北海道素人の私ですが、今後は北海道の名所に赴きつつ、４回目の時には皆さんと北海道の魅力を語れるようになれたらな、と今から楽しみです。